

対掌長 大衆団交で何を薄得すべきか 社会科学研究会 ?

(3)

一、当局責任者と連絡取扱いを確立せよ。

二、加算年保と連絡取扱いを確立せよ。

三、当局は「大衆の研究室」の運営上に実力対決せよ。

四、教科書改訂問題の解決に協力せよ。

五、教科書改訂問題の解決に協力せよ。

六、大衆團交で何を薄得すべきか?

(2)

昨日の大衆團交の内容

松田学園部長と兩中執との間にとりがされた「確約書」の不履行、その責任追求という形で始まった。國文は、統計的に言つぱら、學生部の自治活動は殺戮的制的剥削、処分の不当性、當局の大學生者、學園、大學の社會的役割論に対する意識くべき無知、不寛容、その日暮し、現在するに大學教育政策の全き不在などであった。合わせ、當局者の無能さも暴露された。

だがしかし、今日國斗學の窓の中、明君内閣における學園館、農園部問題などを一方に抱え、他方に权力の暴力的、向著無用的攻撃が不斷にしかけられてくる情況であつて、我々は國文を一般的に問題提起へらうのみでは、目前に迫った後ろ姿、安保・油縛斗争を斗ひ得ないし、因々そのものが意味をなさない。

我々は明君氏、學校司業者の責任を徹底的に追求するなかから、大學たる良石代、修道院などといつ今日的使命を設定、媒介させつつ、當局者を引絶め、學園館にまで追いこみ、總務として大學の窮屈主義的再編成の斗争へと發展させてい小物ではない。そのことは、東大、日大斗争が新たに切り替じた點においての頭を離さず、發展させることにほかにならない。

[1]

4・12の日大暴行事件の法廷審査は日争の際、学生を追つて學園内に乱入、126名にのぼる学生を不当逮捕した。当局あるいは日本民衆が言つづくは何を物語つているのか? 当局あるいは日本民衆が言つづくは

く、日本学生と諸君が权力を挑発したならとは思つてない。

あらかじめ、70年安保を射程に收めた帝日主メ田寮权力の治安彈圧体制の整備、強化リ内秩序の強权的骨組の一環、その具体

的表現にはかならない。陸續と打ち続く全国的抗争の巨波に恐怖した帝日主メアレジヨアジーの多段彈圧であり、従つて、そのことは個別明治大學の問題ではなく、明確に人民大衆全体に対する階級的攻撃である。42の「非帝事態」の本質的性質がかかるものであるが故に、その抗議の質、形態は、昨日当局が提起した方針リ体校嚴禁、今後審査は权力の攻撃に何ら有効な戻を与えるものではないばかりでなく、實質的には學生教職員を分断することによって極力側に争ふるものといはなければならない。

そのような当局の歎詞的効果と異變し、その責任を徹底的に追求するものとして昨年の「大衆團交」はあった。では、その場で明らかになつたことは何か?